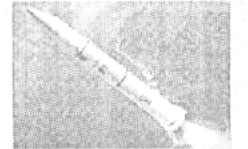


# 文部科学省における宇宙・航空分野の重点施策

平成23年度予算案	1,770億円
〔 22年度補正予算による前倒し分含む うちJAXA予算案	1,910億円 1,866億円
平成22年度当初予算額	1,854億円
〔 21年度2次補正予算による前倒し分含む うちJAXA予算額	1,905億円 1,851億円
(注) 環境・地震・防災分野の宇宙利用関連経費を含む	
(注) 運営費交付金中の推計額を含む	

- 「新成長戦略」(平成22年6月閣議決定)、「当面の宇宙政策の推進について」(平成22年8月宇宙開発戦略本部決定)等を踏まえ、宇宙開発戦略本部の下、関係府省と緊密に連携しながら施策を推進する。
- 特に、ユーザニーズを踏まえた技術開発による宇宙機器産業の国際競争力強化、宇宙外交を通じた協力国の拡大と我が国の宇宙利用の海外展開、最先端科学・技術力を活かした国際社会でのプレゼンスの確立等を目指し、以下の施策を重点的に取り組む。

	360億円 [447億円]	(327億円 [378億円])
<b>(1)宇宙の利用がドライブする成長の実現</b>		
・グリーン・イノベーションに貢献する地球観測衛星	254億円 [341億円]	(168億円 [218億円])
-水循環変動観測衛星(GCOM-W)、気候変動観測衛星(GCOM-C)	83億円 [144億円]	( 36億円 [87億円])
-全球降水観測/二周波降水レーダ(GPM/DPR)	12億円 [ 38億円]	( 16億円)
-雲・エアロゾル放射ミッション/雲プロファイリングレーダ(EarthCARE/CPR)	19億円	( 9億円)
-陸域観測技術衛星2号(ALOS-2)	61億円	( 20億円)
・超小型衛星研究開発事業	3億円	( 3億円)
・小型固体ロケット	38億円	( 20億円)
・準天頂衛星システム	13億円	( 81億円)
・宇宙利用促進調整委託費	4億円	( 5億円)
<b>(2)宇宙外交の推進</b>	<b>356億円 [408億円]</b>	<b>(412億円)</b>
・国際宇宙ステーションにおける日本実験棟「きぼう」の運用・科学研究等	150億円	(153億円)
・宇宙ステーション補給機(HTV)	198億円 [250億円]	(251億円)
・回収機能付加型宇宙ステーション補給機(HTV-R)の研究開発	0.5億円	(新規)
・国際協力の戦略的推進	8億円	( 8億円)
<b>(3)最先端科学・技術力の強化</b>	<b>675億円 [677億円]</b>	<b>(721億円)</b>
・はやぶさ後継機	30億円	(0.3億円)
・X線天文衛星(ASTRO-H)	30億円	( 1億円)
・水星探査計画(Bepi Colombo)	30億円	( 18億円)
・ロケット・衛星に係る信頼性向上	117億円	( 83億円)
・施設設備の老朽化対策	49億円 [ 51億円]	( 35億円)
<b>(4)航空科学技術に係る先端的・基盤的研究の推進</b>	<b>35億円</b>	<b>( 35億円)</b>
・国産旅客機高性能化技術の研究開発	10億円	( 13億円)



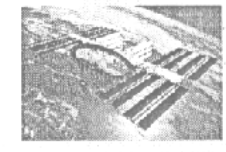
小型固体ロケット



水循環変動観測衛星(GCOM-W)



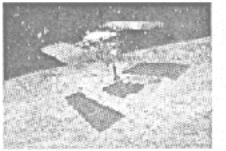
複数基による多周波同時観測のイメージ(超小型衛星)



国際宇宙ステーション



日本実験棟「きぼう」



はやぶさ後継機



X線天文衛星(ASTRO-H)

※ [ ]内は補正予算による前倒し分を含む  
 ※ 宇宙利用促進調整委託費については平成23年度より、国家基幹研究開発推進事業(仮称)として一体的に推進